

広報の質を向上させるための 広報アドバイザーを活用した取組は

問 広報の発展に向けた展望は。
答 市長／広報は行政情報だけでなく、本市の魅力発信により、市民の市政への理解と信頼の醸成、自発的な参画を促すほか、市内外の人に関心を持ってもらうための重要な役割を果たしている。近年の情報技術の進展や価値観の多様化、都市間の競争に対応するためには、市全体の広報力の強化が必要であることから、令和六年度は、若手職員を中心とするプロジェクトチームの提案に基づき、**広報アドバイザー**を導入した。今後は、市職員の情報発信に関する

技術の向上に加え、広報に対する意識の向上を図っていく。
問 マーケティングリサーチの視点を広報に活用する考えは。
答 政策推進部長／広報にマーケティングの視点を取り入れることは、事業の効果を最大とするために有効であると考えことから、令和六年度は、広報アドバイザーを活用し、マーケティング視点を持った広報をテーマとした研修を実施する。また、個別案件に関する相談においても、市場や統計情報の活用等の助言を受けることが可能である。

小澤 隆



脱炭素社会実現に向けた 本市の取組は

問 ゼロカーボンシティNUMAZU2050の取組は。
答 生活環境部長／本市は、脱炭素社会の実現に向け、事業者の省エネ設備や太陽光発電設備設置に対して補助を行っている。令和六年度は新たに、新築の事業所や住宅の再エネ・省エネ設備導入等に対する補助制度を設けるなど、支援の拡充を図っていく。
問 本市の環境教育について、①拡充の考えは。②周知方法は。
答 生活環境部長／①脱炭素社会の実現に向けて、市民・事業者のより

一層の理解と主体的な取組を促進するため、環境教育の拡充が重要であると認識している。本市では、小学校と連携し各種啓発事業や、事業者向け省エネルギー講習会等を継続して実施しており、令和六年度は親子環境教室等に新たなメニューを加えることで、環境教育の拡充を図っていく。②広報ぬまづや市ホームページ等で継続的に情報発信を行っているほか、大型商業施設でのイベント開催やブース出展等によりPRの場を広げ、より積極的な周知・啓発に努めていく。

渡邊 博夫



興国寺城跡の 整備と活用の取組は

問 興国寺城跡の歴史的価値に対する本市の認識と、将来的な整備活用の見直しは。
答 教育次長／興国寺城は十五世紀後半に築かれたと伝えられており、江戸時代初期の廃城に至るまでの重層的な歴史が紡がれたものであると認識している。国史跡に指定された面積は広大であり、全てを一度に整備することは困難であることから、令和六年度に策定する整備基本計画に基づき、順次、天守台周辺や見学路、トイレ、駐車場、案内看板等を整備するとともに、土塁・曲輪など



▲興国寺城跡の全景（上）と伝天守台礎石（下）

の復元作業を進めていく。その後は、地元住民をはじめとする多くの人が楽しめる空間づくりの検討を行うなど、歴史的資産として有効に活用していく。

佐野 博一



移住促進に向けた 企業誘致の取組は

問 企業誘致を推進することは、生産年齢人口の増加につながるかと考えるが、本市の取組は。
答 産業振興部長／本市は、さらなる企業誘致の推進に向けて、本市が持つ地理的優位性や交通便利性などの強みを積極的にPRするとともに、土地の購入や設備投資などへの補助を実施している。これに加え、交通便利性をさらに生かすため、都市計画マスタープランで示す「片浜池田線沿道ゾーン」において、市街化調整区域における開発行為等の審査基準の見直しを行うなど、製造業を中

心とした企業の進出需要に対応できるよう環境整備を進めている。また、企業立地適地調査にも着手し、新たな事業用地の確保に向けた検討も進めている。若年層の雇用機会の創出に向けては、若年層の就労割合が高いIT企業等に対する事務所開設などの資金助成に加え、令和六年度は新たに視察ツアーの実施を予定している。今後も、多くの企業の進出に対応できるよう環境整備に努めるとともに、企業の事情に寄り添った伴走型の支援により、多くの企業誘致が実現できるよう努めていく。

井原 三千雄

